

第 28 回 川西市展入選目録

特別賞 青木賞(市長賞)

工芸の部
「十二支 神のもとえ」
乾 恵(大阪市)



特別賞 平通賞(議長賞)

日本画の部
しんしん
「深深と」
山崎 一義(川西市)

特別賞 川西市美術協会賞

写真の部
「光芒」
砂田 まゆみ(猪名川町)



部 門 洋画、日本画、書、彫刻・立体造形、工芸、写真、現代美術

入選作品 令和2年2月4日(火)～2月8日(土)

展示期間 午前10時～午後5時(最終日は午後3時まで)

会 場 キセラ川西プラザ 2階

主催 川西市

洋画の部

一席 棚田の冬

上田 順子



二席 舞い納め

渡辺 良子

三席 さざ波

太田 連

奨励賞 お疲れさま

稲垣 泰造

奨励賞 結界に眠る女

早川 博唯

奨励賞 首里の幽霊ビル

井澤 茂明

奨励賞 りんご園 雪化粧

竹股 研一

奨励賞 はすいけ蓮池

淀井 多美子

奨励賞 路地裏(川西)

川端 節子

奨励賞 働く人

藤田 道枝

入選 ジヴェルニーの庭にて

依田 頼幸

入選 溪流

山本 良彦

入選 多田神社 東門

中谷 幸雄

入選 英国紳士

東 幸芳

入選 家族の笑顔

遠田 悦子

入選 ブルゴーニュの街並み

田中 多美

入選 天国か地獄か

河野 満

入選 廃屋(役目を果たした「もの」の美しさ)

酒井 成之

入選 多田大橋の秋

岡島 信博

入選 牛

芝 司信

入選 能勢電 多田の鉄橋

多久和 定道

入選 老木

中島 広子

入選 白き花咲く頃

広瀬 敬三

入選 語らい

天野 征子

入選 てんかふぶ天下布武の城

横川 武利

入選 アブ・シンベル追想

島池 裕見子

入選 眠れ良い子

野村 和男

入選 標高3106m

新谷 栄二

入選 まどろ微睡眠

田中 未来

入選 撮られてるよ。

佐藤 夏美

入選 思いでの花

中尾 昇二

入選 溪谷の秋

野々山 蓉子

入選 クーリングタワー

吉田 高明

入選 孤高の華(にらさきし葦崎市)

小室 浩士

入選 はないかだ花筏

高井 勝

入選 三人の魔女

北中 良輝

入選 教会の見える裏通り

稲継 佳久

入選 昼下がり

谷岡 賢隆

入選 かやぶ茅葺き里の春

前田 拓

入選 静寂の間

郡 博哉

入選 はげいとう

坂井 登美子

入選 新緑の廃屋

高須 栄一

入選 港の休日

河合 和彦

入選 赤い屋根の街(チェコ)

大槻 貞二郎

入選 ていしゃくきょう おんばし帝釈峡・雄橋

山中 秀夫

入選 休憩

岩井 早苗

入選 森のレストラン

北村 良江

入選 歓楽街

石田 貢

入選 ドック

浦 政一

入選 躍動

赤木 政則

入選 ひ陽に立つ

市川 良子

入選 青い風吹く

丹治 朋子

入選 京の老舗蕎麦屋

赤尾 正武

入選 光に包まれて

高木 清子

洋画の部つづき

講評 松村 一夫・大東 明宏

今年もしっかり描き込まれ、作者の苦心の跡が感じられる力強い作品が多く見られました。

一席「棚田の冬」は、収穫を終えた田に積もる雪の質感を、水彩で見事に描き出しています。ハイライトの部分の雪の白さがとても美しく、冷々とした空気感までも表現された作品です。

二席「舞い納め」は、紫陽花の色と形態の変化をよく観察して描いており、その存在感が時間の経過と生命のはかなさを強く伝えています。今年はより説得力が増した作品になりました。

三席「さざ波」は、木と水面のコントラストが、背後からの光を通して誠実に描かれています。複雑に交差する木の枝を細部までしっかり観察し、空間を感じさせる作品になっています。

日本画の部

一席 しんしん
深深と

山崎 一義



二席 ダリアと花・花

米田 三枝

三席 びれいはいきよ
美麗廃墟

久保 博義

奨励賞 岩根絞り 椿

板野 英子

奨励賞 かす
霞む月光静寂の一瞬

藤井 安雄

入選 春うらら

柴垣 傳子

入選 ごうせん
五能線(特別列車の走った日)

阿久根 記美子

入選 ふうき
富貴

山本 富美子

入選 うつろい

森崎 康文

入選 1200年のえい衛 2

高畑 明夫

入選 しゅうれい
秋冷

藤田 和弘

入選 あお ぶどう
青不動

清水 信子

講評 小田 賢・曲子 明良

今年も出品点数が減りました。

一席「深深と」は、廃屋の前の芒、葉を全て落とした柿、しんしんと降る雪、冬の空気感がよく出ています。

二席「ダリアと花・花」は、花瓶に活けられたダリアや秋明菊など丁寧に描かれてはいますが構成にひと工夫を。

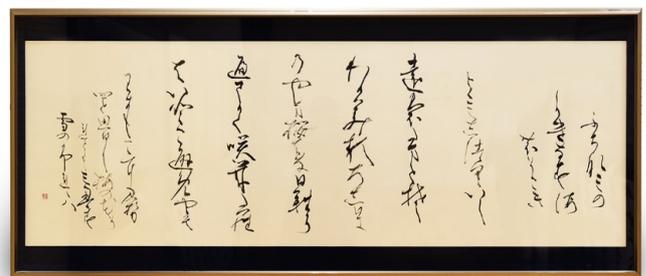
三席「美麗廃墟」は、この作品も隅々までよく描かれています。下の路などもっと単純化して描き込みに差をつけた方が作品にメリハリができます。絵具の発色も生々しいところが気になります。

奨励賞「岩根絞り 椿」は、椿の花を丹念に描きましたが構図も色彩も平凡です。「霞む月光静寂の一瞬」は、ちょっと雑な印象ですが月夜の情感は少し出ています。今回は全体的に低調でした。もっと写生しエスキースで考え更なるレベルアップを期待します。

書の部

一席 ふぢなみの

永田 由香



二席 かんきよ えんこうどうし
閑居 袁宏道詩

高橋 香華

三席 ばいかのしょ
梅花歌序

川口 登美子

(次頁に続く)

書の部つづき

奨励賞	たねだ さんとうか 種田山頭火の句と言霊	深松 華夢
奨励賞	りちゅうのし 李中詩	永井 紅丘
入選	くう 空	中島 久夫
入選	たく ぼくた 啄木詩	鍋倉 京子
入選	春	小田 美夕紀
入選	しょうせい 鐘聲	和田 掃花
入選	り か ゆうし 李嘉祐詩	酒井 白鷺
入選	りしょういんし 李商隱詩	丹羽 好美
入選	り はく し 李白の詩	筒井 淳子
入選	はな きんかんわかしゅう さくら花(金槐和歌集)	長田 恵美子
入選	さんじゅうろっかせん そうじょうへんじょう 三十六歌仙僧正遍昭	高田 多恵子
入選	ごこん りっし 五言律詩	福岡 淳

講評 柳澤 鳳翔・塚田 洵河

今年の出品点数は、昨年と同じ15点でした。審査は、本格的な書を目指した格調の高い作品を考えました。古典を意識した大胆の中に繊細さがあり、一番大切な線質、線の厳しさ強さ、自然な筆運びの中に生き生きとした躍動感あふれるリズムがありその中に気負わずに生まれる空間、余白の美しい作品を目指したい。

一席「ふぢなみの」は、空間を生かした実力派の作。二席「閑居 袁宏道詩」は、力強い線、上下左右の空間がもう少し欲しい期待の作。

三席「梅花歌序」は、半切二枚を横にした上下のバランスを考えた作。

他の作品も個性ある力作が多く見られ、紙一重で入賞となりました。

来年も古典を意識した力作を期待いたします。

彫刻・立体造形の部

一席 平和の祭典 神山 美登里



二席 孫・七五三

細川 忠夫

三席 雑学者

小河原 國弘

奨励賞 ハッピーバク

本郷 美琴

入選 竹の阿修羅像

待場 嘉昭

入選 フラワーフルーツ

竹中 恭子

入選 弥勒菩薩

足立 精二郎

入選 再生

高畠 照久

入選 造形のリズム

中村 良三

講評 山田 実・堀野 利久

出品点数は少なかったのですが、次世代の参加者があったことは、良かったです。

一席の「平和の祭典」は、東京オリンピックの聖火ランナーを意識して制作されたもので、彫刻の基本をふまえ、一步を踏み出したポーズに躍動感が表現されています。

二席の「孫・七五三」は、愛情たっぷりの素敵な作品です。少し緊張した表情が上手く表現されていて、造形も優れた良い作品です。これからも、素敵なモチーフで作品制作を続けてください。

三席の「雑学者」は、「本格的に塑像に取り組み、胸像としても見ごたえのあるもので、表情に思いがこめられている様子がうかがえる作品です。量感やバランスも良くすぐれた作品です。

奨励賞の「ハッピーバク」は、シュレッダーで出た紙を使われていて質感の面白さが出た作品です。少し動きをもたせたり、表情に工夫をすると益々魅力的な作品になると思います。

これからの作品が楽しみです。今後も、意欲的な作品が多数出品されることを期待しています。

工芸の部

一席 十二支 神のもとえ

乾 恵



二席 フクロウ

羽倉 正

三席 花の丘

梅崎 裕美子

奨励賞 宝石箱

荒木 三郎

入選 冬景色

堂見 和子

入選 かがり松細工

西村 昇平

入選 紆余曲折

植山 和美

入選 獅子口

森島 紀明

入選 桜黄金紋様

上野 利雄

入選 首里城

真柄 あゆみ

入選 庭のツワブキ

長谷川 由紀

入選 秋の実り

梶本 七重

入選 gekkou

内堀 淳二

入選 陶額 オアシス

清水 秀雄

入選 不調和のバランス

松本 節子

入選 ちぎり絵 源氏物語

前口 心妙

入選 線状紋花器

天宅 功

講評 北島 桂子・熊本 一哉・泊里 涼子

一席「十二支 神のもとえ」

雲の上に十二支が、勢揃い。皆楽しく大笑い。こんな世界が、現実にあつたらすばらしい！

一つ一つ手を抜く事なく作り込んでいて完成度が高い作品ですね！この作者は毎年わくわくする作品を出品してくれます。今後も、期待する作者です。

二席「フクロウ」

しつこいほどフクロウを、観察して制作しているのがよくわかります。「表情」、「羽のようす」とてもリアルです。目もいいです。

三席「花の丘」

北の大地をイメージし、綴織や布を裂いて作品にそのエスプリを封じ込めた、作者の意図が心良く感じられました。化学染料と植物染料を使用し、花の鮮やかさと、緑の深さ、空の透き通った空気がうまく染め分けられました。今後も、気持ちが素直に表現できるよう努力されることを期待します。

奨励賞「宝石箱」

華やかで印象の強い空板を使用されていますが、全体的に小ぶりの小引き出しにし、把手を花の形にするなどの創意によって、女性的な雰囲気生まれ、宝石箱にふさわしい雰囲気となっているように感じられます。板の接ぎ方や角度に細やかな技法を用いられており、好感が持てます。背面の処理まで気を配られると、更に作品のレベルが上がるように思います。

写真の部

一席 光芒

砂田 まゆみ



二席 菊炭を焼く

日下部 一一

三席 冬窓下

植良 隆文

(次頁に続く)

写真の部つづき

奨励賞	祭りの日	前田 悦二	入選	干潟の散歩道	板野 宣正
奨励賞	<small>れいめい たき</small> 黎明の滝	本田 健二	入選	ニューフェイス	小林 恭子
奨励賞	夏の思出	馬場 和正	入選	夏イベントの日	和田 國雄
奨励賞	おねだり	永野 晃造	入選	白のプロムナード	近藤 孝典
奨励賞	<small>ひわた しんじ</small> 火渡り神事	魚谷 行重	入選	出合いの季節	芦田 芳郎
奨励賞	シャッターチャンス	藤本 昌平	入選	<small>げんえいじゅんろく</small> 幻影馴鹿	岡村 佳代子
奨励賞	今日も町を元気に	木下 勇	入選	トンネルのファミリー	前田 千代子
奨励賞	<small>ちようこういちばん</small> 朝光一番	牧 孝三	入選	日の出を拝む	前田 弘志
奨励賞	<small>ろへん しゃよう</small> 炉辺の斜陽	田中 孝	入選	お先に失礼	田中 善
奨励賞	二人の世界	濱口 榮司	入選	<small>か びげんらん</small> 華美絢爛	清水 晴夫
奨励賞	<small>さざなみ</small> 漣	松本 徹	入選	<small>びえい</small> 美瑛のくらし	松尾 隆子
奨励賞	京都夏模様	仁井田 精司	入選	祭のひとつき	光武 仙子
入選	雪国のくらし	梅崎 光政	入選	オール岸和田	前田 安活
入選	晩秋の草原	森田 八十八	入選	乱舞	砂田 廸生
入選	次会う頃には	中西 宏明	入選	滝行	井川 幹朗
入選	声援	吉原 和孝	入選	<small>はくぼ</small> 薄暮の大イチョウ	桑名 弥栄
入選	介護	池園 厚	入選	まちかど	高木 元子
入選	港街花火の宴	棚田 隆	入選	<small>ふうせつ</small> 風雪に耐えて！	木村 公子
入選	さあ出発	北村 敏雄	入選	祭り境内	明石 けい子
入選	十五の夏	山辺 幸男	入選	身支度	竹本 賢一
入選	帰り道	羽田 範子	入選	<small>きり ま</small> 霧に咲く	松田 光史
入選	<small>せいしゅう</small> 清秋の夜空	宇田川 洋二	入選	<small>しゅ</small> 朱にそまる	田中 恒夫
入選	皆さーん、ご一緒に	清水 和義	入選	幻影	齊木 富美子
入選	暮らす	田中 富士夫	入選	<small>せんまいだ ゆうしょう</small> 千枚田夕照	北島 遼太郎
入選	<small>しゅうよう</small> 秋陽	春元 昌三	入選	光る汗	太田 茂範
入選	フォトジェニックカー	宮脇 雪子	入選	初日の出	西村 謙之助
入選	<small>はるらんまん</small> 春爛漫	長沼 利彦	入選	神事乱入	常木 良一
入選	逃げろ……待て！！	亀田 喜代子	入選	童心に返る	長原 恭子
入選	<small>きたい ちようしょう</small> 機体の嘲笑	名越 章	入選	縄文の祭	柏木 浩
入選	めげないで	薄井 研司	入選	りんご飴っ子	林 由喜夫
入選	<small>ゆめその</small> 夏の夢園	山田 純一	入選	<small>えいこせいすい</small> 栄枯盛衰	澁野 逸萌
			入選	<small>まつりばやし</small> 祭囃子	小池 祥弘

(次頁に続く)

写真の部 (つづき)

入選	最後のご来光クルーズ	中塚 義昭
入選	<small>あわいろ</small> 淡彩	宮下 忠明
入選	<small>ひつじ こく ひつじくさ</small> 未の刻(未草咲く)	木村 和重
入選	道を照らす人	山田 正人

講評 川口 和子・大亀 京助

今年の応募総数は137点、大変バラエティに富んだレベルの高い作品揃いでした。今年は額の汚れや、ピントの悪さなど審査をする前に入選外になる作品が全くありませんでした。美術展に応募する意識の高さを感じ取られました。

一席は、「光芒」になりました。高くそびえる杉林を照らし出した太陽が、朝霧によって演出され木漏れ日となりドラマチックに表現されています。スポットライトのように草花たちは照らし出されているのもいいですね。柔らかいキラキラと差し込む光が生きる力を与えている瞬間が美しいです。

二席は、「菊炭を焼く」です。炭焼きを受け継ぎ伝統技術を守り続けている有り様を4枚の組み写真で表現されたドキュメンタリーです。静かな山の中に炎が上がりそして煙が地を這います。炭を焼く香りが辺りを包む有様を感じさせる作品となりました。

三席は、「冬窓下」です。海外で撮影されたのかと錯覚いたしました。これから動き出そうとするBAR。そしてその窓越しに並んだ椅子に無作為に座る人たち。窓の中と人の対比を夕暮れブルーで表現された作品、映画の一コマのような感じがしました。

現代美術の部

一席	<small>ちくういつたいか</small> 地空一体化	岡根 章帆
----	----------------------------------	-------



二席	CONNECTION	簗原 侃子
----	------------	-------

三席	The Air 120	西川 輝彦
----	-------------	-------

奨励賞	ガンバレ!	石田 貢
-----	-------	------

入選	よろこび	柚木 美恵子
----	------	--------

入選	チゴイネルワイゼン	畠山 忠美
----	-----------	-------

入選	飛来物を並べると (大震災後も夜が明けるNo.84)	Ms & Mr シュウ
----	-------------------------------	-------------

入選	和2020	高野 暢子
----	-------	-------

入選	ゆるぎない世界	高阪 孝子
----	---------	-------

入選	<small>そら うみ はざま</small> 宙と海の間で	Atelier Madoka
----	------------------------------------	----------------

入選	インフルエンザ	桑垣 和弘
----	---------	-------

入選	遊びごころ	赤木 政則
----	-------	-------

入選	<small>しんそう</small> 深想	鈴木 基光
----	---------------------------	-------

入選	虹の雫	江渡 豊
----	-----	------

入選	YODOMI	塚本 秀之
----	--------	-------

講評 高田 雄平・森 倫章

今年度の現代美術部門は出品者の増加、作品の多様化(素材・発表形式)と、変化・展開が見られるものとなりました。一席「地空一体化」は、制作のコンセプトを身近な素材(お花紙・和紙・刺繍糸・ミシン糸)を用い造形化され、その展示方法も含め、意識の高い作品となっています。

二席「CONNECTION」は、画面上の小さな形状がリズムを感じるとともに、そのリズムが黒と他の色彩とのハーモニーで落ち着いた作品となっています。

三席「The Air 120」は、下層の重ねられた色彩のゆらぎ、上層の短いタッチの色彩が画面の奥・画面の前面への浅い空間が感じられる、ふしぎな空間の作品となっています。

奨励賞「ガンバレ!」は、鑑賞者参加型の作品として現代美術の一つの形式ではあるが市展の中にこのような作品があることは次への展開につながると思います。

各部門審査員

(順不同、敬称略)

<洋画>

松村 一夫・大東 明宏

<日本画>

小田 賢・曲子 明良

<書>

柳澤 鳳翔・塚田 洵河

<彫刻・立体造形>

山田 実・堀野 利久

<工芸>

北島 桂子・熊本 一哉・泊里 涼子

<写真>

川口 和子・大亀 京助

<現代美術>

高田 雄平・森 倫章

特別賞審査員

川西市長

越田 謙治郎

川西市議会 議長

秋田 修一

川西市美術協会 会長

鳥居 夔

(公財)宝塚市文化財団 理事

大野 良平

特別賞について

特別賞の青木賞、平通賞は、昭和を舞台に活躍された川西ゆかりの芸術家に因って名づけられました。

青木賞は、青木大乘（あおき だいじょう）画伯の名前をいただきました。青木画伯は、明治24年大阪に生まれ、新燈社洋画研究所、卯木に大日美術院を開き、洋画から日本画へと世界を広げました。戦後、川西に移り住んで創作活動を続け、昭和54年に亡くなりました。

平通賞は、平通武男（ひらどおり たけお）画伯に因んでいます。平通画伯は明治40年大阪に生まれ、新燈社にて青木大乘画伯に師事。東光会審査員から日展審査員へと洋画の世界で活躍を続け、戦後は川西に住まれ、日展参与となられた後、平成3年に亡くなりました。

両画伯のご遺族により、川西市に青木大乘画161点、平通武男画146点の絵画が寄付され、川西市郷土館内に両画伯の記念館「ミュージーゼ レスポアール」が平成7年に開館し、両画伯の絵画を鑑賞できます。

また、第25回川西市展時に川西市美術協会賞を新設し、青木賞、平通賞と同じく一席の作品の中から選出しています。

第28回川西市展応募状況等

部 門	出品点数	入選点数	入賞点数
洋 画	66	54	10
日 本 画	12	12	5
書	15	15	5
彫刻・立体造形	9	9	4
工 芸	17	17	4
写 真	137	70	15
現代美術	15	15	4
合 計	271	192	47